

精神看護学実習における 学生の学びについて

— 「精神看護学実習を終えて」のテキストマイニングによる分析—

○山崎 陸世

溝口みちる

研究の背景

精神看護学の内容は1997年と2009年のカリキュラムの改正にともない狭義の精神科看護からすべての人の心の健康保持増進の支援に拡大した。現在、少子超高齢化の進展などにより、医療・介護提供体制も大きく変化しようとしており、地域包括ケアの流れの中、今後は精神障害者の地域生活支援など看護師が担う役割がますます拡大していくと考えられる。よって、教育内容が疾患を中心とした病気の看護から、生活する人の看護へ移行し、看護と福祉を統合させた視点での教育が進められるようになった。

精神看護学教育の現状及び研究の目的

学生

初めての精神障害者との関わりに、不安を抱えていることは否定できない。実習では「患者に何ができたのかわからない」という学生も中にはみられる¹⁾。

教員

ポジティブに意味づけをし有意義な体験へと修正していく指導を実施している²⁾。

指導は
模索中

現状

学生は「何を学ぶのか」教員は「何を教えるのか」、は明確にはなっていないと考える

研究目的

本研究では実習記録に記述された内容を分析することで、今後のより良い実習の提供や教育的介入の示唆を得ることを目的とする。

テキストマイニング手法で、学びに関する特徴語や関連語を把握し、多方面に分析する

研究方法

1. 研究対象

研究対象は、2017年度に4月～11月に精神看護学実習を行った3年課程のA看護専門学校3年次生42名に対し、実習最終日に提出した実習記録「精神看護学実習を終えて」を対象とした。

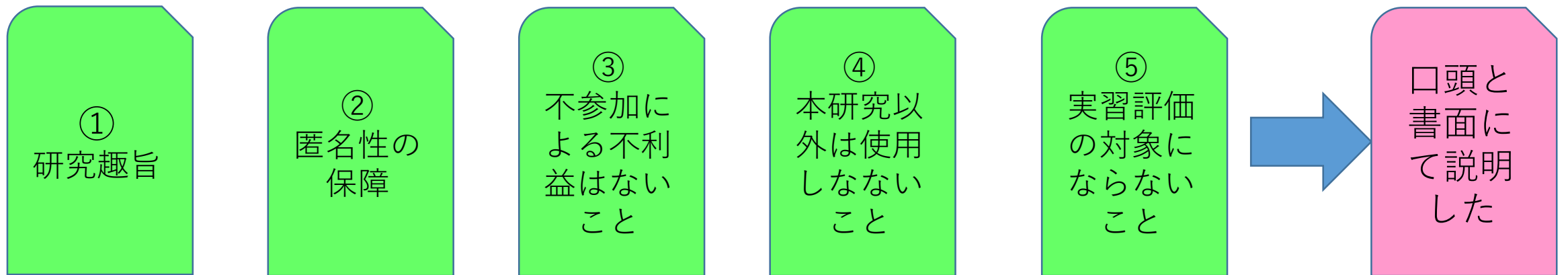
2. 分析方法

すべての実習が終わり学生の評価終了後、学生が記録した文章をデータ化し、Text Mining Studio 6.1(株式会社NTTデータ数理システム)を用いて、単語頻度分析、係り受け分析などの分析を行った。

3. 精神看護学実習の概要

精神科介護療養型病棟での実習を主に、受け持ち患者を学生主体のもと学生自身で決定している。

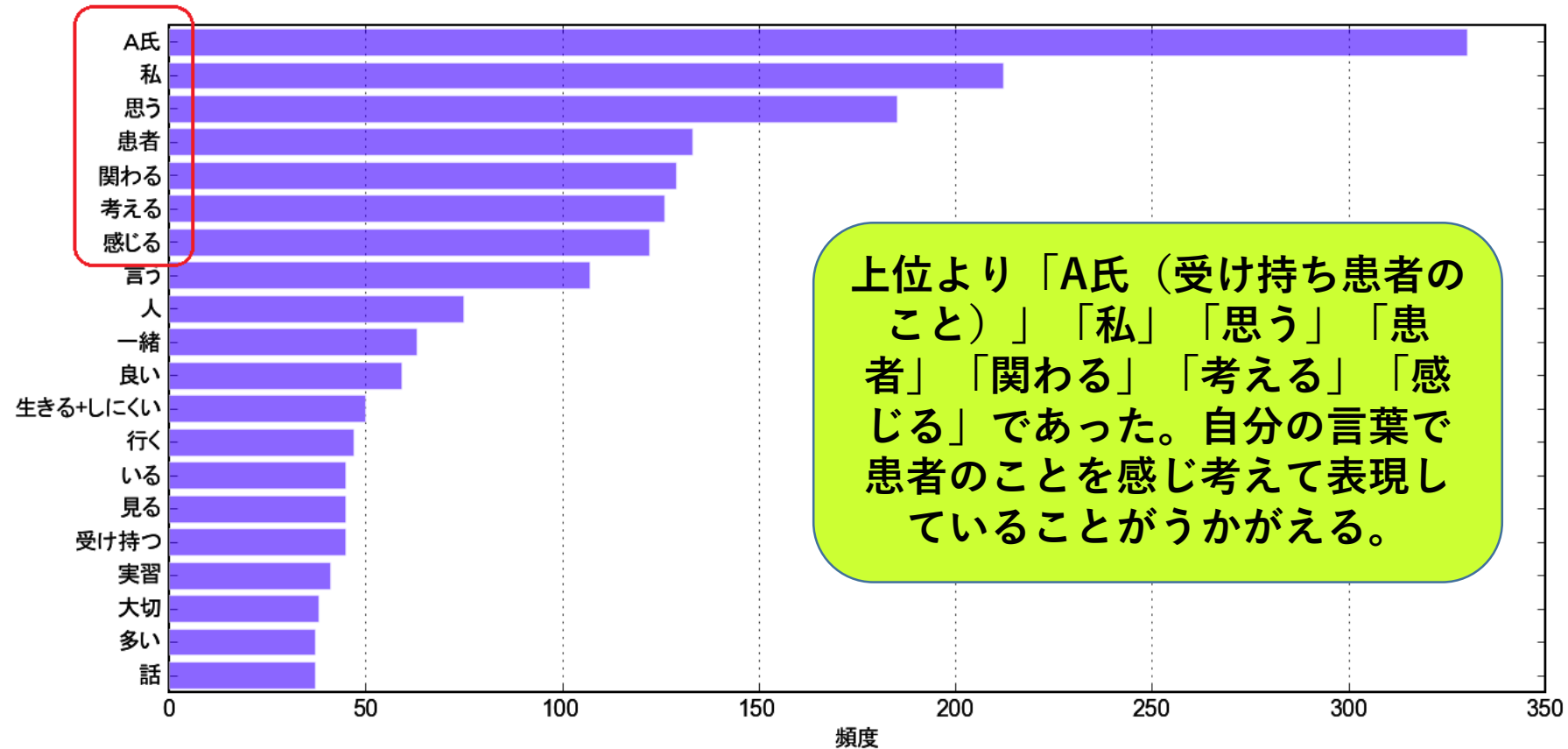
倫理的配慮



研究データはID化して研究者のみが扱うものとした。
本研究は田北看護専門学校倫理審査委員会の承認を得た。
(承認番号2018-1)

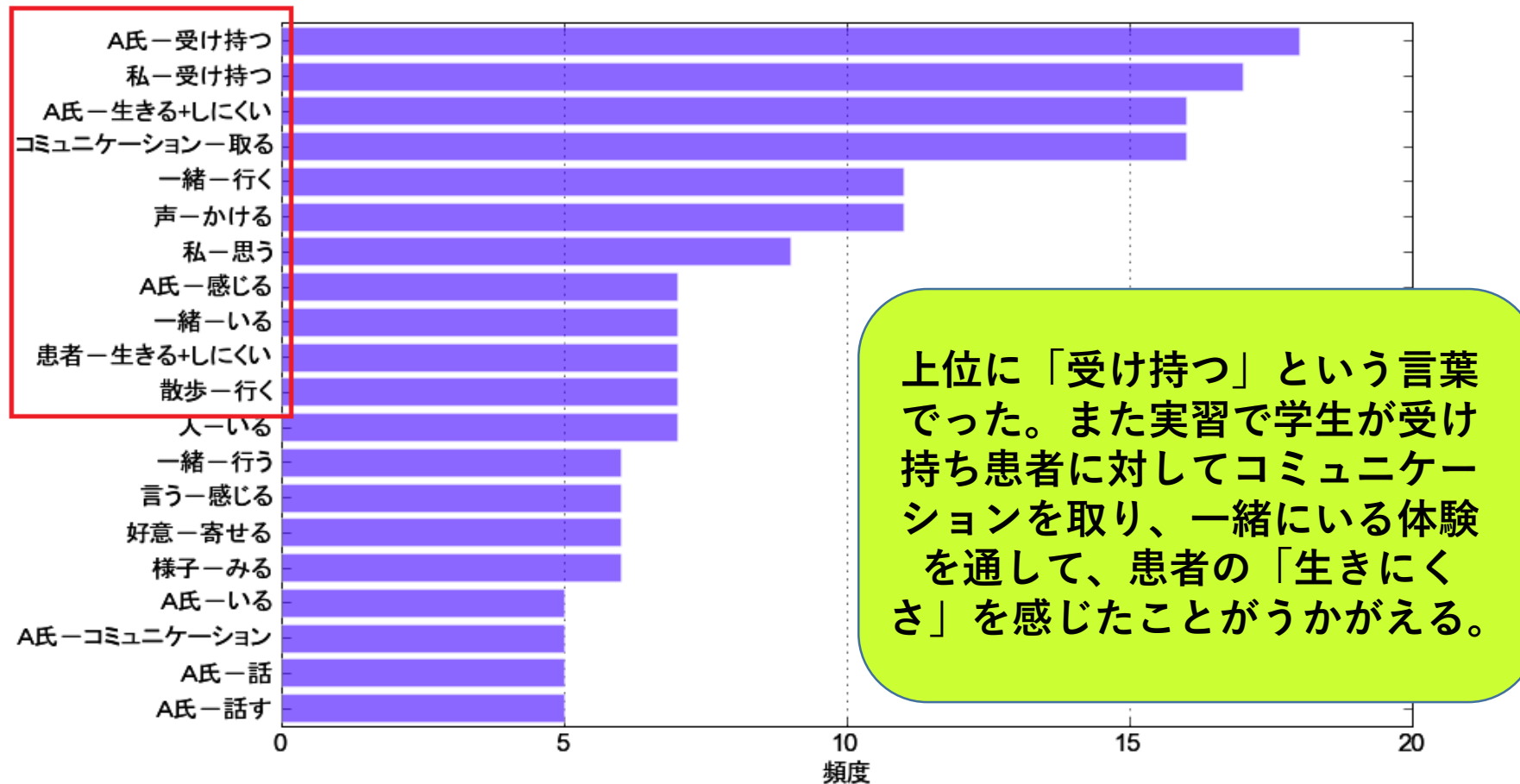
結果

学生はどのような言葉を使っているかについて「単純頻度解析」を行った。
(NTT数理システムText Mining Studio 6.1 使用)



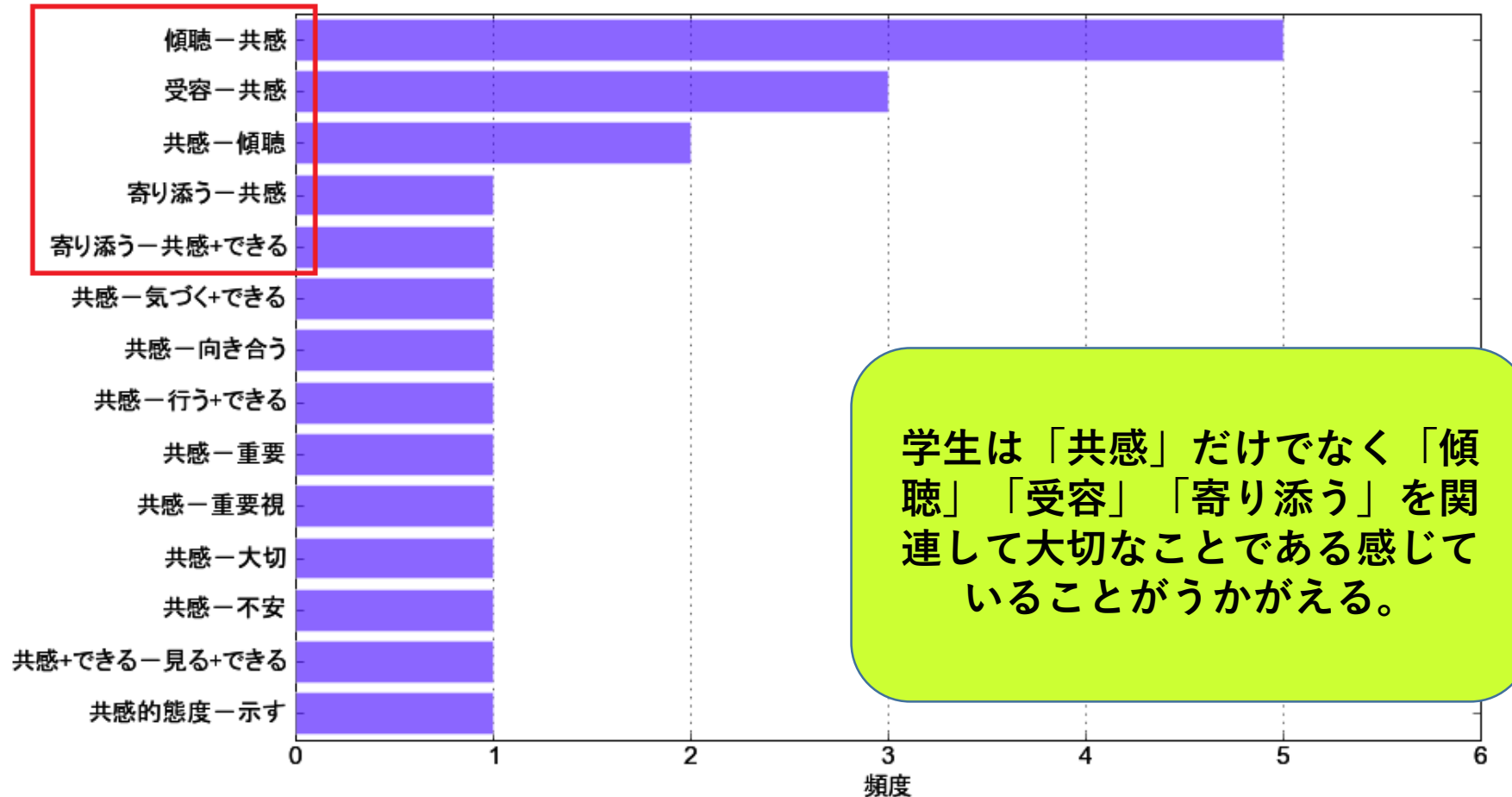
結果

フィルタ条件を入れずに単純に「係り受け頻度解析」を行った。
(NTT数理システムText Mining Studio 6.1 使用)



結果

文中で「共感」がどのように用いられているか「係り受け頻度解析」を行った。
(NTT数理システムText Mining Studio 6.1 使用)



まとめ

- 学生は受け持ち患者の関りを通して、精神障害者の「生きにくさ」を理解していた。
- 学生は「共感」だけでなく「傾聴」「受容」「寄り添う」ことが大切であると気づくことができていた。
- 学生に受け持ち患者を学生主体で決定させているが、それが実習での学びにつながっている可能性がある。
→今後も継続する根拠となる示唆を得た。

引用文献

- 1) 谷本千恵・辻真理子・川村みどり 他：精神看護学教育に関する実態調査（第一報）－教員の実態ならびに教育内容の変遷について－，石川看護雑誌，Vol.10 P.103-110. 2013.
- 2) 田中いずみ・比嘉勇人・山田恵子：精神看護臨地実習における看護学生の自己成長感の内容，Toyama Medical Journal Vol.25 No.1 P.61-68. 2014.
- 3) 小田亜希子・武藤雅子・小林幸恵 他：看護大学生の看護観に関するテキストマイニングを用いた分析，活水論文集 看護学部編，P.3-21，2015.
- 4) いとうたけひこ：テキストマイニングの看護研究における活用，看護研究，Vol.46 No.5 P.475-484. 2013.
- 5) 高橋由紀子・臼井かおり・三枝聖美：テキストマイニングによる統合実習での学びのレポートの分析，第48回日本看護学会論文集 看護教育，P.71-74，2018.